



智発第0880513号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

智頭町長 寺谷 誠一郎



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあったこのことについて
別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案書

智 頭 町

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

鳥取県智頭町

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

これまで続けられてきた都会中心の道路事業がやっと田舎の方にまで届くようになり、さあこれからという矢先、国の財政上等の理由で予算は削減され、事業中断となった所もあり、さらには交通量の少ないところには道路はいらないのではないかなどと中央で勝手に解釈され、都合のいい議論がなされてきました。元々道路はお金を生み出す物ではなく、国民の共通財産である社会資本として整備されてきたものです。そもそも道路とはなにか何のために誰のために必要なのかに今一度考えて頂きたい。道路は国民生活にとってなくてはならないものであり、物、人の交流を通じて国民生活を豊かにするものであります。田舎にあっては電車やバス等の公共交通機関に恵まれていないところが大半で、住民の足として必要不可欠なものです。日本の国を一人の人間の体と考えるならば、心臓は東京等の大都市、道路は各々の機能を果たす臓器等を結ぶ血管と言えます。地方とりわけ智頭町は指先かもしれません。しかし、げがをしたりどこか病めば必ず手当を施します。人体にとってなくていい物は何一つないはずで、どこか悪ければ健康とは言えません。地方が元気だから日本が元気なんです。国土の均等ある発展こそが日本を元気にするはずで、かといって、国がすべてを担う訳ではなく、地方はそれぞれの役割を疎かにしてはなりません。それぞれの自治体が各々で考えその機能をしっかりとやり遂げることが大切です。しかし、そのためには地方に財源が不足しています。国の予算配分は概して言えば、人が多い、集まる所に予算が多く配分されています。ある意味当然かもしれませんが、見方を変えれば、田舎は広大な国土を小人数で支えているとも言えます。こうした予算配分にして頂きたい。昨今、高齢化が進み若者が都会へ出ていき都市周辺の町では人口流出が続く、村がなくなっています。これは地方の町に原因があるのでしょうか。今の社会構造を作り出したそのものに原因の大半があります。各町村では人口の流出をくい止めるべく、企業誘致等でも様々な施策を行なってきましたが、道路網の整備なくしては根本的な解決にはなりません。

以下の項目について予算措置して頂き、併せて地方が各々にあった施策を独自に考え実施できる使いやすいものとなりますよう、要望します。

(1) 鳥取自動車道の早期整備

鳥取県の高速道路整備率は全国でも最下位レベル。県西部の米子自動車道のみという状況であり、東西を繋ぐ山陰道や東部の鳥取自動車道はまだ繋がっていない。

鳥取県東部の南に位置し、岡山県との県境に位置する智頭町としては、鳥取自動車道が中国縦貫道や山陰道と早期に繋がるのが最も大切。

(2) 観光地へのアクセス道路の整備

智頭町内の主要観光地へのアクセス県道の早期整備。

(3) 安心・安全な道路整備

- ・ 通学路の歩道整備や高齢者の安全対策となる道路面の段差解消（バリアフリー化）。
- ・ 見通しの悪い（事故の多い）交差点の改良。

(4) 道路の維持管理費についての財源確保

市町村について交付税措置

今後の道路行政について意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

鳥取県智頭町

○現状

- ・鳥取自動車道は、平成１９年度末に智頭町内は完成した。
- ・企業の新規立地についても、もともと産業基盤が脆弱でインフラ整備も遅れている。

○課題

- ・交通上便利になる反面、智頭町は通過点となり、町内への滞在客が減少する恐れがあり、努力する必要がある。
- ・産業基盤が強い地域との格差は拡大する恐れがある。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

様式 ③

鳥取県智頭町

- ・ 今後、関西圏との観光交流を活発に行っていくためにも、芦津溪谷、板井原集落、智頭宿等の道路整備が不可欠。
- ・ 関西圏へ農林水産物の販売を展開していくためにも、鳥取自動車道の早期整備が不可欠。
- ・ 智頭町は 93% が森林であり、この貴重な資源を有効に活用し、「緑の風が吹く疎開の町」を目指している。
現代社会においては、激烈な競争社会の中で生じるストレスやうつ病、そして成人病につながるメタボリック症候群等、さまざまな病気がうごめいており、心を患った人が増加している。
智頭町では、森林の持つ癒し効果を活かし、健康増進やリハビリテーションに役立てる森林セラピーを、智頭病院と連携し実践し、都会のストレス社会から疎開してくる人々を受け入れ、更には移住する人も受け入れていく。そのためにも、森林セラピー候補基地（芦津溪谷、綾木峠、板井原集落、智頭宿）へのアクセス道路の整備が不可欠。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

鳥取県智頭町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化 ・良好な生活空間自然環境の形成 ・良好な景観の形成 ・大規模な地震、火災に強い国土づくり等	・芦津溪谷 主要地方道津山智頭八東線（郷原～芦津間）における幅員狭小区間の解消。 ・板井原集落 主要地方道智頭用瀬線（智頭～板井原間）における幅員狭小区間の解消（あるいは待避場所整備） ・智頭宿 電柱移転（地下埋設）など町並み保存を前提とした道路整備。智頭駅から智頭宿までの宿場情緒のある道路整備。 ・綾木峠 主要地方道津山智頭八東線（智頭町八河谷～八頭町佐崎間）智頭町芦津、八河谷や八頭町佐崎などは行き止まりとなっており、災害等で道路が交通止めになると集落が孤立することになる。 郡部の町は隣り合う町との連携が大切であり、農業、林業、観光、防災などあらゆる面で綾木峠の早期整備が必要	・孤立集落の解消。 ・災害時のアクセス道路の整備実現。 ・観光地へのアクセス道路の整備実現。 ・町並みの形成・保全。 ・孤立集落の解消。 ・災害時のアクセス道路の整備実現。	